



6月1日(水) 2022年(令和4年) 発行所:東京都千代田区一ツ橋 1-1-1 〒100-8051 電話(03)3212-0321 毎日新聞東京本社



水システムの「見える化」

近い将来、世界人口の35億〜40億人が水不足に陥ると言われている。今回は、そんな課題を解決しようと開発を進めているWOTA株式会社の社長である前田瑤介さんにお話を伺った。

(倉本和)

「遠く、見えない」

水供給システム

古代から人類は、より多くの水を得るために遠くから水を運ぶ技術を発展させてきた。わが国でも、1964年の東京五輪の際、人口が増加して水が不足したため、群馬県などの郊外から来たかが「見えない」水を供給するようになった。

しかし今、人口爆発による需要増加や気候変動の影響で、水の供給が追いつかない状況が多発している。2030年には世界人口の40%にあたる35億〜40億人が水不足に陥るという推定も出ている。20世紀に適応した方法は、21世紀、そしてこれからの合っているとは限らない。いま世界



は、「遠い水・見えない水」を使う時代から、身の回りにある「近い水」を使う時代へのシフトチェンジが必要になっているといえる。

(阿部円香 賀川未涼)

大規模から小規模へ

お話を伺ったWOTAは、大規模集中型の上下水道システムから、小規模分散型水循環システムへの移行を実現しようとしている。もともと水道の通っていない場所に住んでいた前田さん。東京で東日本大震災を経験し、水道がどこで止まっているのかわからず、そのせいでたくさんの方が水道を利用できず困っている状況に違和感を覚えたという。WOTAが開発したWOTA BOXは、水を使用した後、様々な行程でろ過し、紫外線などで除菌するもので、98%の水を再生利用することができる。一つの機械の中で人分の水で100人がシャワーを利用することができ

るのだ。(鍋田侑希)

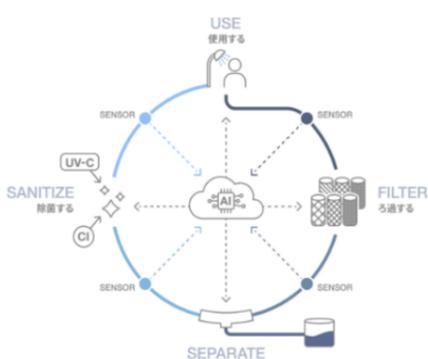
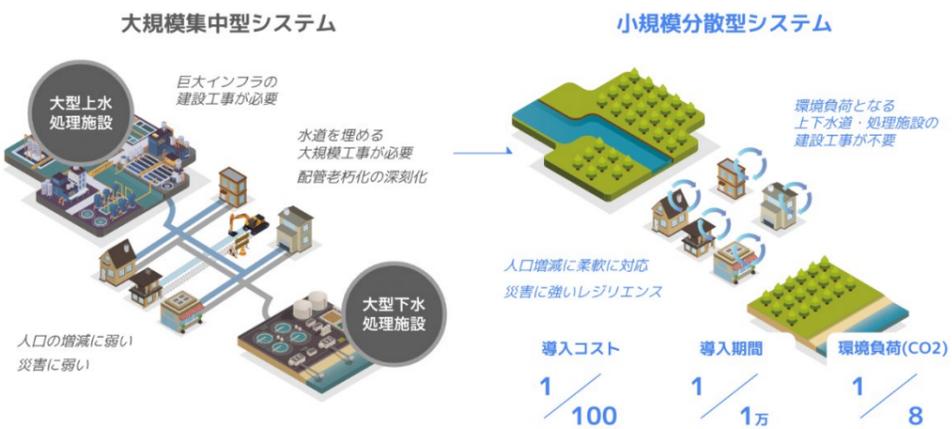
環境問題は世界共通

前田さんは幼いころから理科に興味があり、中学2年生のときにはアメリカの研究所を訪問。そこで「環境問題は世界共通の問題になっていく」ということを

聞くと、環境問題を通して世界と関わりたいと考えた。山間部に住んでいたこともあって、環境問題の中でも水に興味を持ち、高校生の頃から水問題を扱ってきた。東日本大震災での経験もあり、皆が仕組みのわかるものづくりを目指した。そこで代表に就任したのがWOTAだ。

(川俣敦子)

小規模分散型水循環システムで世界の水問題を解決



社会インフラに

WOTAは2030年までに「WOTA初期導入コストゼロ」を実現し、水道に代わって「社会インフラになる」ことを目指している。また、日本のみならず世界で水不足を抜本的に解決していき、環境汚染のリスクを最小化にしたいと考えているようだ。そして、この目標を達成するにはコストを下げるのが何よりも必要であり、そのためには「使用量の増大」と「販

売量の増大」が大切である。

私たちは「販売量の増大」はできないが「使用量の増大」なら関わる事ができるはずだ。例えば、WOTAの存在を周囲に広めたりするだけでも「使用量の増大」に繋がるのではないだろうか。このように私達人一人一人が常に意識し続け、行動することが環境問題を解決するうえでとても大切である。(三部香実)